

MARIANISTES

—— マリアニスト ——

四旬節に想う

マリア会 清水一男

毎年、四旬節のこの時期になると、子どもの頃の体験を思い出します。私が育った長崎の浦上地方では、四旬節の毎金曜日、夕方5時ごろから、“十字架山”と呼ばれる小高い丘で十字架の道行きの祈りが唱えられていました。この十字架山は、明治14年に、幕末から明治の初めに起こった浦上村の信徒総流配という信仰迫害から生き残って帰った信徒たちによって、迫害が終わったことの感謝とその出来事の記念として、また、徳川時代に心ならずも続けられた“踏絵”に対する償いと、弾圧した為政者の罪を赦してもらうことを祈るために、この丘の頂上に大十字架を建立したことからこう呼ばれるようになりました。夕方の冷たい風にさらされながら、手足の凍える中で祈った道行の祈りは、私の体と心に刻まれています。

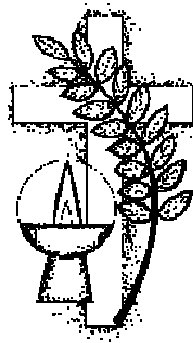
もう一つ思い出す体験は、当時の教会では、四旬節中はキリストの御受難に合わせて、できるだけ楽しいことを控える、という習慣があったことです。四旬節は、長崎では“ハタ揚げ”（凧揚げ）のシーズンと重なり、子どもたちもこれを楽しみに待っていましたが、信者の子どもたちは復活祭までこの楽しみをキリストの御受難に合わせて犠牲としてささげるよう求められました。今年のように復活祭が早い年はいいのですが、4月の後半になる年などは、他の友達がハタ揚げを楽しんでいるのをじっと我慢して見

ていたのです。しかし、復活祭の朝は、特別な喜びのときでした。復活祭のミサが終わるやいなや、用意しておいた“ハタ”と“ヨマ”（イト）をもって飛び出し、一日中ハタ揚げを楽しんだものでした。

復活祭の準備期間としての四旬節の過ごし方は時代によって変化しています。初代教会の頃は、洗礼の準備期間として、洗礼の持つ重大な意義を実感するように、40日間の厳格な節制や断食などが行なわれました。中世になるとキリストの御受難に対する関心と信心が盛んになり、信仰生活も、特に四旬節はキリストの御受難と十字架にあやかるような行為が大切にされました。このような傾向は第二バチカン公会議以前の私の子どもころまで続いていたようです。現代の教会は、キリストの御受難が復活と不可分に結ばれていることを強調します。そのために、四旬節は信仰

の原点を見つめ直すための最も適した“時”として、回心と愛のわざに励むよう努めます。苦しみや困難の中にある人々の叫びに耳を傾け、その叫びからのひびきを受けとめ、そのひびきをつなぐことを呼びかけています。

(四旬節キャンペーン小冊子 No. 22 2008年 参照) もっと社会に眼を向け、苦しみの中にある人々と連帯することを通して、新しいのち(復活)へと招かれています。



韓国だより

韓国のマリアニスト信徒共同体 (MLC)

富来 正博

韓国のMLCは大きく二つの共同体に分かれています。一つはソウルの共同体、他はソウルから一時間ほどの距離にある国際空港のあるインチョン（仁川）の共同体です。それぞれ100名くらいの会員を抱えており、緊密な連携を保ちながら、独自の活動を行っています。二つの共同体はそれぞれ評議員会を持っていますが、これを統括する韓国MLC評議員会があり、昨秋の東京で行われた北東アジアマリアニスト家族評議会に参加した信徒の皆さんは、この全国レベルの役員の方々でした。

二つの共同体の合同の催しとして、6月にミサと運動会、エンターテイメントを兼ねたような一日がかりの交わりの機会があります。学齢期前の子供たちから80歳のお年寄りまで、SM、FMIの修道者も含めて、心から楽しんでいきます。もう一つ大きな催しとしては、10月全世界祈りの日に合同の巡礼をします。ソウル、インチョンからバスを仕立てて目的の巡礼地に集合し、ミサに始まり、ロザリオの祈り、十字架の道行き、30分～1時間の沈黙の祈り、などのうちに全世界のマリアニストと心を合わせて祈ります。

ソウル共同体、インチョン共同体が独自に行う行事としては、1月にマリアニストとしての奉獻を更新する奉獻のミサが捧げられます。5月の適当な日に聖母を称える夕べがもたれます。ミサの後、ローソクの行列、聖母像の前でのロザリオ5連の祈り、そして余興があり、夜遅くまで楽しい時間を過ごします。その他には毎月一度日曜日の午後MLCのミサが捧げられています。これにも沢山の会員が参加しています。養成面では、二ヶ月に一度の割で講座が開かれています。講師はFMI、SMの会員が担当しています。1時間くらいの話の後、分かち合いが行われます。皆活発に発言し、いつも時間が超過しています。

こちらに来て感じるのですが、信徒が本当に積極的だということです。信徒数が多いことも力の元でしょうが、役員の方々は月に数度

ソウルのマリア会の修道院に集まって夜遅くまで会議をしている姿に感心しています。

日韓の交流が深まるにつれて、私たちは互いにいろいろな学ぶことができるでしょう。

第2回北東アジアマリアニスト家族評議会 《NEACFM》を終えて —前号からの続き—

S r. 伊藤昌子

第2回目の会議は25日9時から行われ、最初の議題として、“北東アジアマリアニストが宣教にどのように協力できるか”を取り上げ、まず中国、インド、フィリピンの現状や支援状況をそれぞれ関わりのある枝が報告しましたが、具体的な対策を検討するまでには至りませんでした。次に、“韓国と日本の交流に関する提案”で、北東アジアマリアニスト家族評議会を2年毎に交互に開催することはすでに決まっておりますが、その時期として、出来れば「世界マリアニスト祈りの日」に合わせて日程を組むことが望ましい、という意見にまとまりました。

“マリアニストの霊性を深めるためのセミナーを合同で開催するのはどうか”という提案については日韓SM評議会に委ねることにし、最後に、今後、各国の宣教活動の情報交換とか共同作業による編集などの意見が出されて会議は終了しました。11時半からミサ、つづいて親睦会が行われ、同じマリアニストの精神を生きる両国のマリアニスト家族の交流が、回を重ねるにつれて深まっていることを実感できるひとときでした。過去の日韓関係に照らしてみる時、私達の集まりは、マリアニスト家族の枠を越えて、民族、国家のレベルにつながる意義ある機会でもあると思います。それぞれの国における各枝間の、さらに日韓のマリアニスト家族が核になり、いつの日にかフィリピン、インドと連帯協力の輪を広げながら、アジアの教会に貢献させていただけることを願っております。

連載 マリアへの奉獻（7）

富来 正博

《聖母マリアの奉獻》

私たちの洗礼における奉獻はキリストの奉獻への参与であることを考察してきました。この参与は神の私たちへの呼びかけへの応答です。「ご覧ください。わたしは来ました。聖書の巻物にわたしについて書いてあるとおり、神よ、み心を行うために」と仰せになったイエス・キリストにおいて、私たちを救うと言う神の約束はことごとく「然り」となりました。それで私たちは神を称えるため、この方をおして「アーメン」と唱えます（コリント II-1 章 18 節～20 節参照）。すなわち、そのようになりますように、そのお言葉にすべてを懸けます、そしてあなたのお望みのようにすべてを捧げて従います、という応答をするのです。

ところでこのような応答の最高の模範を私たちは聖母マリアの中に見出すことができます。「神よ、み心を行うために私は来ました」と仰せになった、み子のお言葉にこだまするように母マリアは「私は主のはしためです。お言葉のとおりこの身に成りますように」と神の呼びかけにお答えになります。それは一時的なものでなく、それからの全生涯をおして実現していく重大な結果を招く応答でした。聖母は、神の子のご託身とその宣教、贖罪としての十字架の死、復活、昇天と聖霊の降臨における教会の誕生に立ち会われ、その神秘を生きられました。これらの機会をおして、お告げのときに発せられた「フィアット」「アーメン」を繰り返されたのです。これは神のみ心の受託であり、奉獻であるといえます。

聖母マリアはその存在の最初の瞬間から、神の子の母として「祝された方」でしたが、これらの出来事における神への応答としての「フィアット」「アーメン」は一層深く神に結びつけるものでした。同時に注目しなければならないことは、これらの出来事が人類の救いのためであったということです。このように聖母マリアの奉獻は、ご自分を神と深

く一致させるものであると同時に、人類の救いと不可分のものでした。

2008. 1. 20
「マリアニスト家族祈りの日」に
新しく奉獻された方々と
そのコメントをご紹介します



《糸杉の会》 アグネス大庭みどりさん

3年前に体調をくずし、シスターにすすめられて「糸杉の会」に出席するようになりました。皆様とお勉強するうちに、たくさんの癒しを頂き、10月末には医師から治ったと言われ、奉獻の恵みを頂くことになりました。私の出来ることを奉仕させて頂きたいと願っております。

《フィアト》 フェリチタス佐藤靖子さん

何日も前から緊張しており、誓約文を読みつつ、改めて身の引き締まる思いが致しました。まだ勉強不足で、来年にと決めておりましたが、講習を受け、シスターはじめ皆さんの先輩方のご親切に接し、目の前の霧が晴れた感じが致しました。これも神様のお導きでしょうか。ヨブ記にありましたように、心の目でしっかり見て、よきマリアニストになれるよう精進して参りますことを心に誓いました。

《マリアの子》 マリア米内敏子さん

私自身“奉獻”という言葉に戸惑い、なかなか今日という日に辿り着きませんでした。いつも感謝の心を忘れずに、少しずつですがマリア様の使命に参加させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

お知らせ

主のもとに憩う

—祈りのひととき—

日時：2008年4月～2009年3月

毎月第3水曜日 pm7:30～8:30

08/4/16、5/21、6/18、7/16、8/休み

9/17、10/15、11/19、12/17

09/1/21、2/18、3/18

会場：マリア会

シャミナード修道院 聖堂

〒102-0071 千代田区富士見 1-2-43

担当：清水一男神父

問合せ先：Sr. 小林 (Tel 08051883081)

【参加希望の方は、特に申込みの必要はありませんので、当日会場にお出でください】

信徒のための黙想会

①4月5日(土) 10:00～16:00

テーマ：神様の中であつたまるⅡ

Sr. 田中昌子 (汚れなきマリア修道会)

②5月17日(土) 10:00～16:00

テーマ：イエス様と親しくなるために
山崎政敏神父様 (マリア会)

場所：汚れなきマリア修道会 町田修道院

〒194-0032 町田市本町田 3050-1

費用：1500円

申込：町田修道院 Sr. 高尾まで

TEL 042-722-6301 FAX 042-725-6317

2008年度日本MLC総会

日時：2008年5月31日(土)

場所：シャミナード修道院 2階会議室

詳細は追ってお知らせいたします。

発行 『MARIANISTES』編集部
気付 [汚れなきマリア修道会] 町田修道院

清水一男神父

〒194-0032 町田市本町田 3050-1

TEL 042-722-6301

FAX 042-725-6317

ホームページ <http://www.marianist.jp/>

《レジナチェリ》マリア・ミカエラ古畑久美子さん

「マリアニストの仲間に加わりたい」と強く思ったのは、2000年にシャミナード神父様の列福の巡礼に参加させていただいた時です。日本から参加のマリアニストの方々とはもとより、同じスカーフを首に巻いているだけで、両手を広げて見知らぬ私を受け入れてくださったマリアニストの方々の温かさに強く心惹かれるものを感じ、マドレーヌ教会では懐かしさと歴史の教科書の出来事が今私の前に現れ、確かにシャミナード神父様を感じられたからです。

帰国後は、様々な葛藤がありましたが、私を導いてくださったのは神父様の一言「マリア様に、母親としてまだまだ未熟ですと言って、白旗を掲げて、どうかこんな私をあなたに似せてくださいと、同じ母として祈りなさい」です。これによって奉獻の喜びを得ることが出来ました。これからは、命に響く祈りが出来るように、日々祈ります。支えて下さった周りの皆様ありがとうございました。

《レジナチェリ》マリア・マグダレタ関智恵さん

《レジナチェリ》ジョゼフィーナ性全恵皆子さん

《シャロンの花の会》マリア・セリア重枝ますみさん

《シャロンの花の会》マリア樋口由理子さん

◆◆ 編集後記 ◆◆

間もなく復活祭がやって参ります。

みなさまには、四旬節をとおして、回心と愛のわざをもってお過ごしになられたことと思います。いよいよ闇から光への希望の時です。世界に、一人ひとりの心に、キリストの愛と平和のともしびが明るく灯ることを、私達は希求いたします。イエス様が宣言された“私達の母”であるマリア様と共に、その実現に努めて参りましょう。

どうぞ、よいご復活をお迎えになってください。
(Y. I.)